

宗像市雨に強いまちづくりビジョン検討委員会 第2回会議 議事録（要点筆記）

◇開催日時：令和5年3月3日（金）13時30分～15時00分

◇開催場所：宗像終末処理場

◇出席者：

委員（ <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席）			
<input checked="" type="checkbox"/> ◎ 日高 圭一郎	<input checked="" type="checkbox"/> ○ 黒瀬 武史	<input checked="" type="checkbox"/> 渡辺 亮一	<input checked="" type="checkbox"/> 丸尾 明日香
<input checked="" type="checkbox"/> 豊福 正一			
オブザーバー（ <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席）			
<input checked="" type="checkbox"/> 山口 広喜	<input checked="" type="checkbox"/> 高山 精一郎	<input checked="" type="checkbox"/> 中村 正次	

◎印は委員長、○印は副会長

◇会議内容

<次第>

● 開 会

● 協議事項

1. 雨に強いまちづくりの基本方針（案）
2. 雨水排除施設の整備方針（案）
3. 想定される浸水要因及び対策

● その他

<協議事項>

1. 雨に強いまちづくりの基本方針（案）について

○事務局

- ・重点対策地区、計画降雨、整備水準を設定して、浸水リスクの軽減を図っていく。
- ・重点対策地区は、第2回会議資料P4に示す緑色範囲（凡例参照）とする。
- ・計画降雨は、市内全域を一律10年確率とし、気候変動の影響を踏まえ、68.2mm/hとする。
- ・整備水準は、立地適正化計画で定めている交通軸などの重要路線において自動車で円滑に避難できる浸水深10センチ以下、その他の道路においては自動車または歩いて避難することができる浸水深30センチ以下とする。

○黒瀬副委員長

重点対策地区において、施設整備に係る優先順位を設定するのか。

○事務局

重点対策地区の中でも、特に浸水リスクが高い都市機能誘導区域など施設整備によって得

られる効果が高い区域から進めていく必要があると考えており、詳細については、施設整備計画において示す。

2. 雨水排除施設の整備方針について（案）について

○事務局

- ・基本方針に基づいて、整備水準を満たすように雨水排除施設の検討を行う。
- ・まず、流下能力を向上させる管路施設の整備を検討する。
- ・次いで、河川の水位の上昇の影響を受け、管路内の雨水が流れにくいことが原因で浸水する場合等には、ポンプ施設の整備を検討する。
- ・最後に、管路施設、ポンプ施設の整備が難しいまたは、効果が不十分の場合は、雨水貯留管、公園貯留、校庭貯留など雨水貯留施設の整備を検討する。

○渡辺委員

流出抑制については、民有地の活用を検討する必要があると考える。その場合の予算措置として、助成金などを検討していく考えはあるのか。

○事務局

まずは、学校や公園等の公共用地において流出抑制に取り組むことで、先導的な役割をも担いつつ、必要に応じて民有地における流出抑制に係る方策についても検討する。

○山口建設専門官

国土交通省において、様々な支援メニューを用意おり、個別の状況に応じた補助金等の活用を適宜検討いただきたい。

○黒瀬副委員長

ため池や公園内の池など低水位管理を実施することで流出抑制の効果が得られるのか。また、低水位管理を実施できる可能性はあるのか。

○事務局

ため池等の低水位管理は一定の効果が得られるのではないかと考えており、農業部局において、ため池の低水位管理の取り組みを開始した段階である。今後、効果の検証を行う。

○黒瀬副委員長

浸水リスクの低減方策に係る優先順位の考え方について、水が流れ出すことはやむを得ないので水路やポンプなど土木的なハード整備を優先するのか、あるいは、水が流れ出さないように民有地を含め、貯留や浸透による対策を優先するのかが重要であると考えている。また、優先順位は後者の方が抜本的な対策になるのではないと思う。

○事務局

重点対策地区における浸水リスクの低減に係る効果を早期に発現させるため、浸水要因分析や各種対策に係る効果検証を進め、民有地の利活用、ため池の低水位管理、田んぼダムなどの流出抑制のほか、ハード整備などの方策を効果的かつ効率的に組み合わせた方策を模索したい。

○日高委員長

重点対策地区は浸水リスクを低減させるエリアであって、整備の対象を重点対策地区に限定するのではないと理解して良いか。

○事務局

ご理解のとおりである。

○高山参事補佐

情報提供であるが、福岡県では、「流域治水」の推進にあたり、福岡県の二級水系を4つの圏域に分けて、国・県・市町村からなる流域治水協議会を設立し、宗像市は、北九州・宗像圏域流域治水協議会に参画いただいている。その中で、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策などを含んだ流域治水プロジェクトを策定し、取り組みを進めている。このような流域治水の取り組みにおいて、協力しながら事業を推進できると考えている。また、雨水貯留などの対策を検討する際の参考として、国がとりまとめた流域治水施策集が活用できる。

3. 想定される浸水要因及び対策について

○事務局

- ・平成30年7月降雨において、道路冠水等の浸水被害が生じた箇所、くりえいと地区・赤間駅南地区、田久地区、田熊地区、須恵地区の計画降雨に基づく浸水要因分析に係る等流計算、不等流計算結果などについて報告
- ・現地調査において、発見した水路形状の不具合が浸水要因の可能性のある箇所の報告
- ・現時点における調査結果を踏まえた浸水リスクを低減させるための対策の方向性について

○豊福委員

満潮や干潮など潮位の影響を考慮するのか。

○事務局

平成30年7月降雨に基づく浸水要因分析に係る等流計算、不等流計算においては、潮位の影響は考慮していない。また、浸水シミュレーションにおいては、放流先となる河川水位を計画高水位とするため、潮位の影響は考慮していない。

○丸尾委員

浸水リスクを低減するための対策を講じたことによって、得られる効果をどのように可視

化するのか。

○事務局

素案P4-4(他市参考)のように浸水範囲や浸水深の変化を図化するなどし、わかりやすく示す。

○日高委員長

本ビジョンに係る市民の方への周知や説明はどのように行っていくのか。

○事務局

本ビジョンはパブリックコメントを実施することで、まず、市民の皆様に周知したい。その他、広報誌による周知や防災訓練、防災学習などで周知を図ることを考えている。

○黒瀬副委員長

まず、田久地区の浸水リスクを低減させるため、上流域である自由ヶ丘地区の一部の集水域を変更し、放流先を変えることを検討できないか。

次いで、田熊地区の浸水リスクを低減させるため、上流域である日の里地区等において流出抑制を検討できないか。

○事務局

承知した。幅広に対策を検討する。

○山口建設専門官

今後の浸水シミュレーションにおいて、時系列による考察は可能か。そうであれば、例えば、集水域毎の雨水幹線をネットワーク化したり、放流先を見直したりする場合の検討が容易になると考える。また、浸水シミュレーションの結果について、わかりやすく可視化していただきたい。

【協議事項総括】

○日高委員長

事務局が示した方針に基づき、ビジョンの策定を進めることとし、また、本日、各委員が述べた意見やアドバイスを活用すること。

○日高委員長

以上をもって、第2回宗像市雨に強いまちづくりビジョン検討委員会を終了する。